

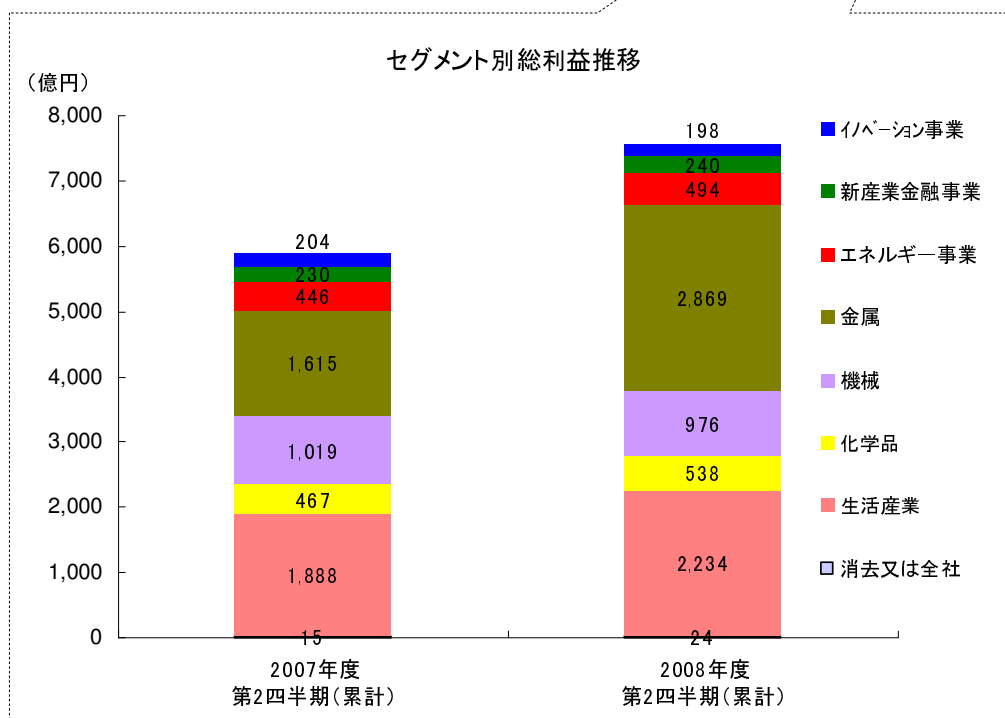
2008年度第2四半期
決算公表参考資料

2008年10月31日

三菱商事株式会社

主要PL項目の前年同期比増減

(単位:億円)	2007年度 第2四半期(累計)	2008年度 第2四半期(累計)	増減	増減率
売上高	110,550	131,806	21,256	19%
売上総利益	5,884	7,573	1,689	29%
営業利益	1,879	3,125	1,246	66%
当期純利益	2,471	2,892	421	17%
基礎収益	3,258	4,839	1,581	49%



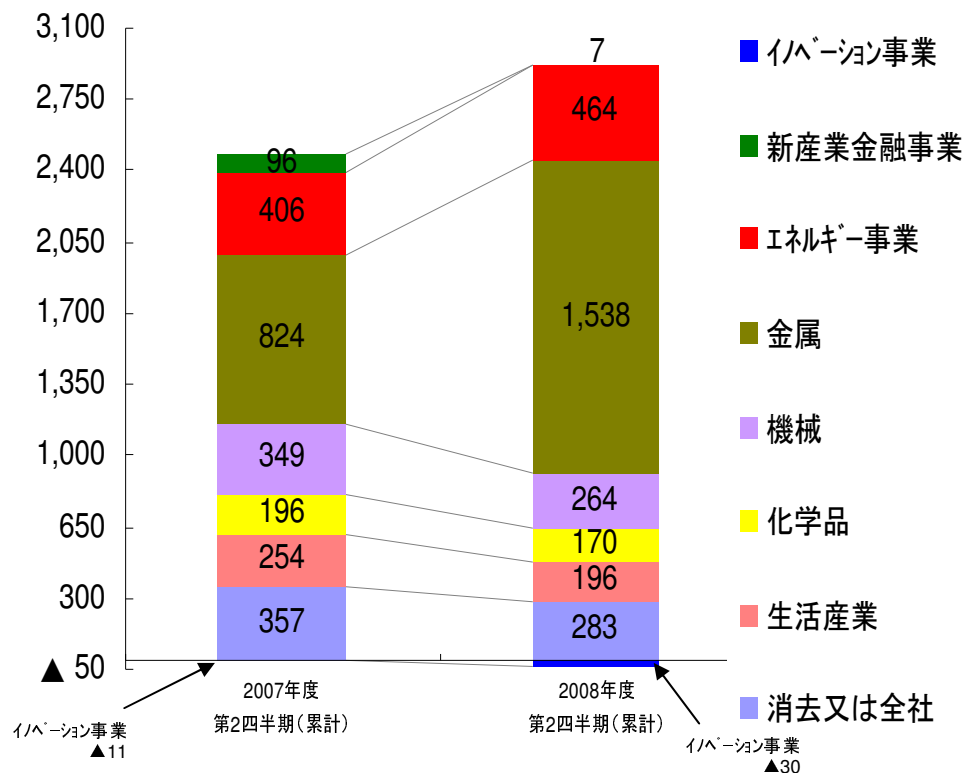
過去のトラックレコード (第2四半期累計ベース)

- 売上高・・・過去最高
(従来の最高は前年同期の11.1兆円)
- 売上総利益・・・過去最高益
(従来の最高益は前年同期の5,884億円)
- 営業利益・・・過去最高益
(従来の最高益は2006年度第2四半期の2,050億円)
- 当期純利益・・・過去最高益
(従来の最高益は前年同期の2,471億円)
- 基礎収益・・・過去最高益
(従来の最高益は2006年度第2四半期の3,283億円)

本資料では、米国会計基準に従い、2007年度第2四半期、及び通期の実績を修正再表示しています。

セグメント別当期純利益の前年同期比増減

(億円)



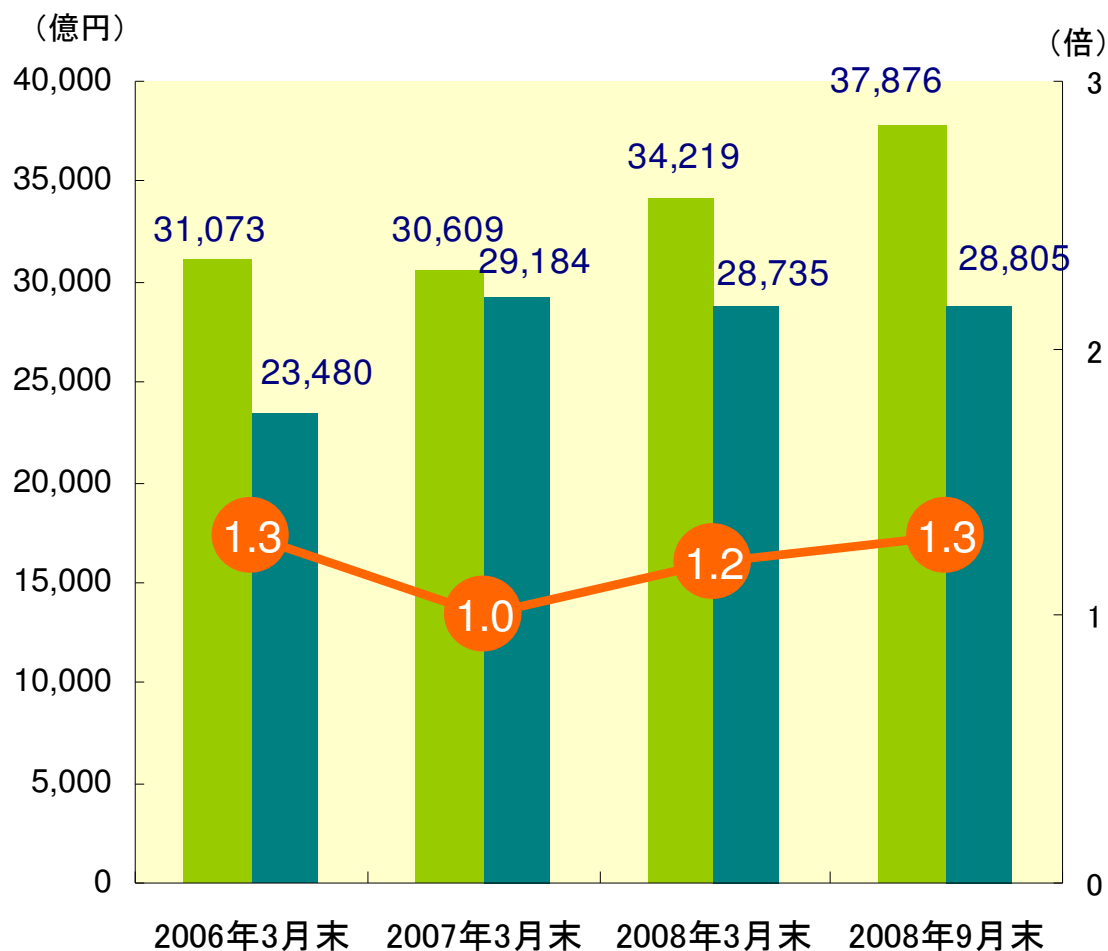
資源価格の推移

	2007年度 第2四半期	2008年度 第2四半期	増減
油価(ドバイ)(\$/BBL)	67.4	115.1	47.7
銅価格(\$/MT)	7,677	8,061	384
アルミ価格(\$/MT)	2,654	2,864	210

セグメント別当期純利益増減理由

- イノベーション事業(△19億円の減益)… ICT(情報・通信)関連子会社の統合による税負担増、取引低調による利益減少ほか
- 新産業金融事業(93%減益)… 前年度における三菱UFJリース株式みなし売却益の反動減、及びファンド投資関連収益の減少
- エネルギー事業(14%増益)… 原油価格上昇による海外資源関連投資先の持分利益及び受取配当金の増加
- 金属(87%増益)… 資源価格上昇による取引利益や配当収入による利益増加
- 機械(24%減益)… 固定資産減損、海外自動車事業での販売減少、及び欧州自動車関連会社の売却による持分利益減少の影響ほか
- 化学品(13%減益)… 親会社における汎用化学品の取引好調により利益が増加したものの、前年同期に計上した石化事業関連会社の持分上昇による税メリットの反動減により利益減少
- 生活産業(23%減益)… 株式評価損による利益減少、前年度株式売却益の反動減

株主資本と有利子負債の増減



■ 有利子負債 (NET)
 ■ 株主資本
 —●— 有利子負債倍率 (NET)

主な株主資本増減要因
(2008年3月末比)

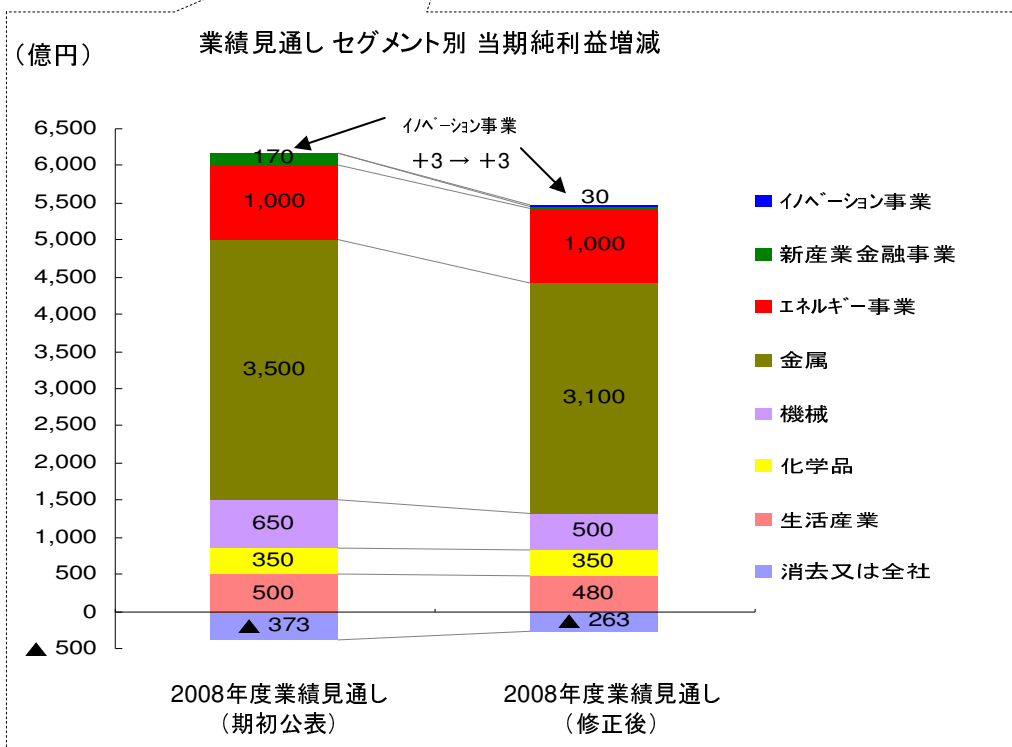
- ① 当期純利益の積み上がり
(2,892億円)
- ② 配当金支払
(△492億円)
- ③ 未実現有価証券評価益の減少
(△998億円)
 …… 株価下落による保有上場株式の含み益減
- ④ 為替換算調整勘定の悪化
(△955億円)
 …… 円高の影響

通期業績見直し

(億円)	2008年度 業績見直し (期初公表) (a)	2008年度 業績見直し (修正後) (b)	対期初公表 見直し増減 (b - a)	2007年度 通期 (c)	対前年度 通期増減率 (b - c)/(c)
売上高	250,000	250,000	0	231,030	8%
売上総利益	16,500	15,700	▲ 800	11,722	34%
営業利益	6,850	6,300	▲ 550	3,551	77%
当期純利益	5,800	5,200	▲ 600	4,709	10%
基礎収益	10,000	9,250	▲ 750	6,285	47%

セグメント別業績見直し増減理由

- イノベーション事業(増減無し)
- 新産業金融事業(△140億円の減益)・・・運用環境悪化によるファンド投資収益の悪化などが見込まれるもの
- エネルギー事業(増減無し)・・・原油価格は上期に上昇したが、下期に下落し、通期ベースの平均原油価格は期初見通し比微増に留まることが見込まれるほか、探鉱費用増加等により見通しは据え置き
- 金属(△400億円の減益)・・・非鉄金属資源価格の下落及び数量減少に伴う受取配当金・持分法損益の減少、豪ドル安などに伴うMDP持分利益の減、並びに第2四半期における株式評価損の計上
- 機械(△150億円の減益)・・・第2四半期における固定資産減損の計上、プラント事業関連会社のコスト増による採算悪化、及び海外自動車事業の販売減少
- 化学品(増減無し)
- 生活産業(△20億円の減益)・・・第2四半期に株式評価損を計上したもの



(注意事項)

本資料における業績予想や将来の予測に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき合理的と判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性その他の要因が内包されています。

従いまして、実際の業績は、見通しと大きく異なる結果となる可能性があります。

商品市況・為替・金利の影響

	第2四半期 までの実績 (a)	第3四半期 以降見通し (b)	通年平均 (c)	期初見通し (d)	増減 (c - d)	当期純利益に対する 損益インパクト
為替(YEN/\$)	106.1	100.0	103.1	105.0	▲ 1.9	1円円高につき年間27億円 の減益インパクト
円金利(%)TIBOR	0.85	0.90	0.87	0.90	▲ 0.03	取引利益や投資利益により金利上 昇の影響は相殺される部分が相当 あるが、金利上昇が急である場合 には一時的に影響を受ける
US\$金利(%)LIBOR	2.83	3.80	3.32	2.80	0.52	
油価(\$/BBL) (トバイ)	115.1	60.0	87.6	85.0	2.6	\$1上昇につき年間10億円 の増益インパクト
銅地金(\$/MT)	8,061	5,512	6,787	7,937	▲ 1,150	粗鉱品位、生産操業状況、急激な 銅価変動(下落)に応じた精算金需 要、再投資計画(設備投資)等、価 格変動以外の要素に大きな影響を 受ける
アルミ地金(\$/MT)	2,864	2,200	2,532	2,900	▲ 368	\$100低下につき年間10億円 の減益インパクト